

新学術領域研究「共創言語進化」
公募研究説明会資料



計画研究B03 「言語の発達過程の認知科学的研究」

研究代表者
小林春美(東京電機大学)



領域における位置づけ



- **B03** 認知発達班では、子どもの言語・認知発達の観点から言語進化過程を推測することを目指す研究を行う。



B03認知発達班の目的



言語が無い状態

言語が有る状態



言語進化研究を捉えるための枠組み

- 人間が直示コミュニケーションを獲得したことが共創的な言語進化に繋がったという仮説
- 発達の観点から直示コミュニケーションの出現機序を調べる。

B03認知発達班の目的

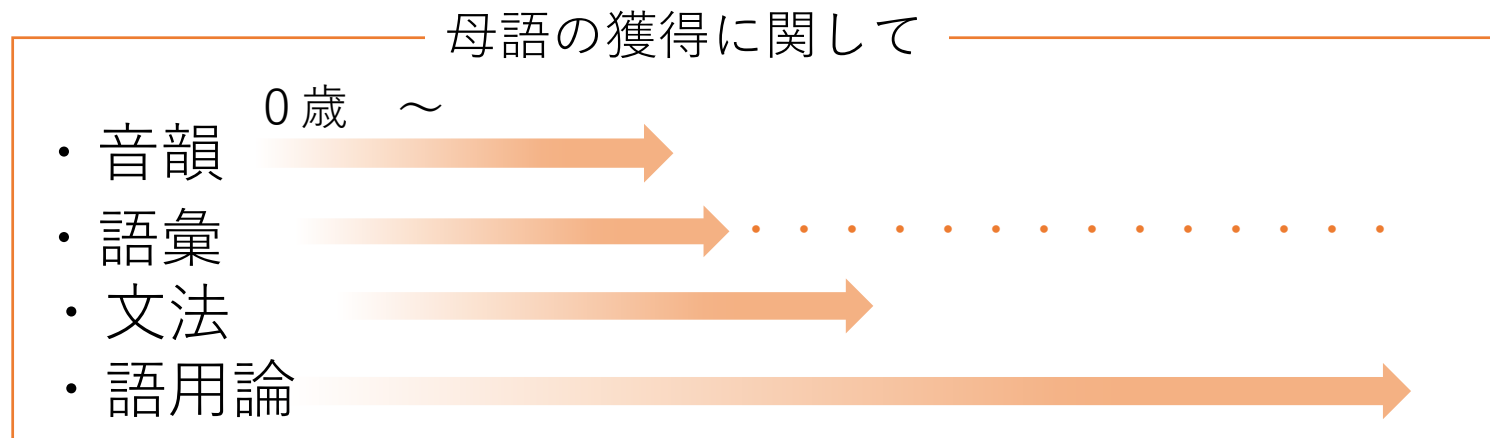


言語が無い状態

言語が有る状態

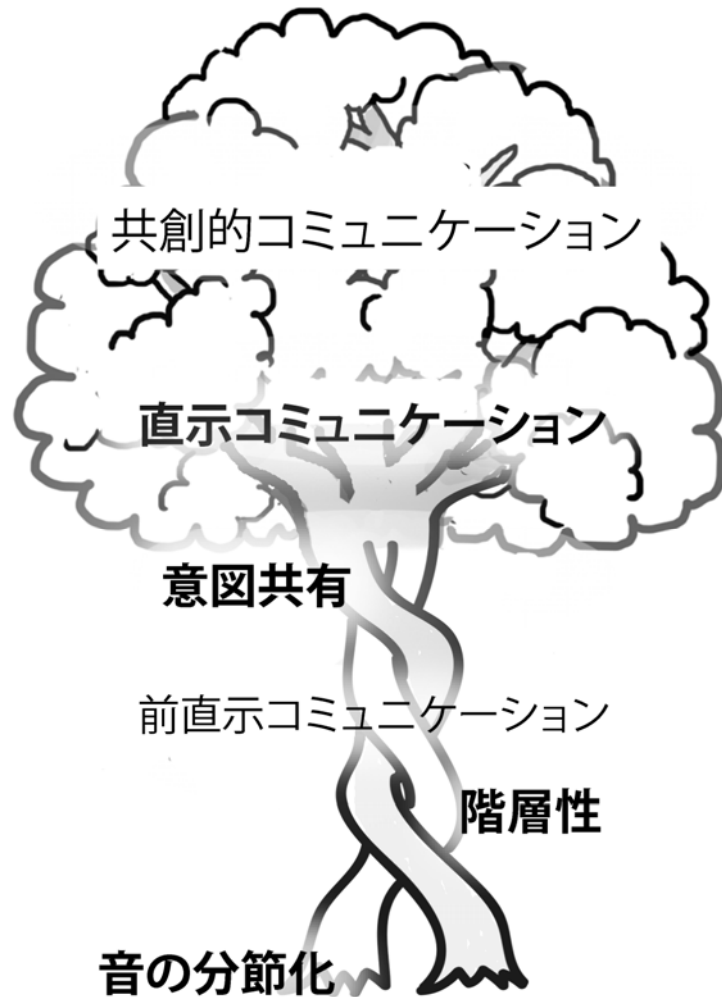


言語進化研究を捉えるための枠組み



- 人間が直示コミュニケーションを獲得したことが共創的な言語進化に繋がったという仮説
- 発達の観点から直示コミュニケーションの出現機序を調べる。

本班で提案する「直示の木」



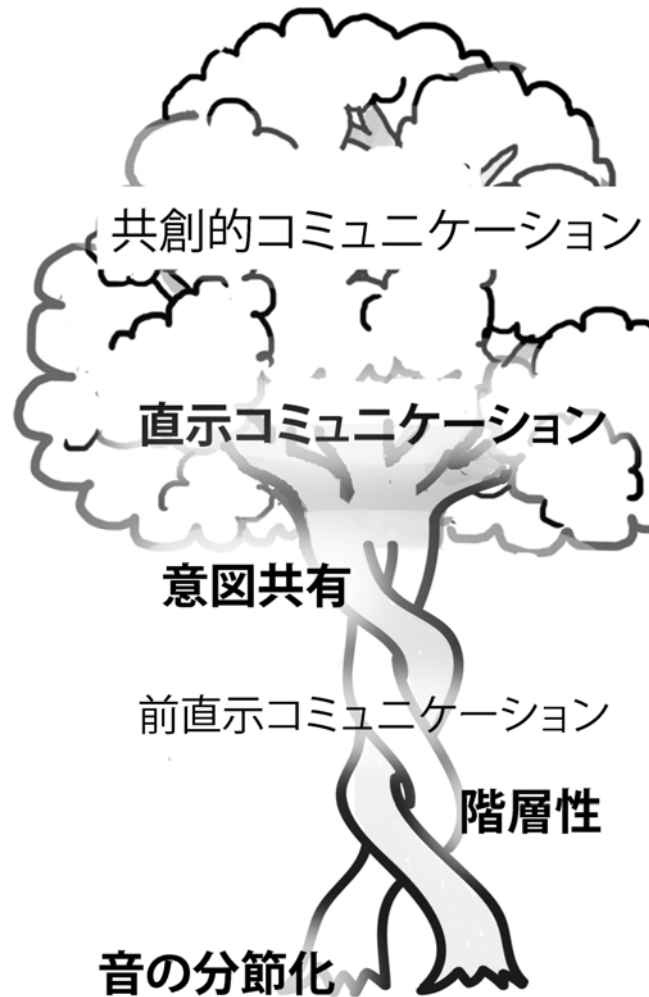
意図推測と階層性におけるヒト固有の能力が直示コミュニケーションの出現を促したと予測

直示コミュニケーションとは
(意図明示的コミュニケーション)

Ostensive communication:

話し手の伝達意図（話し手が聞き手にある情報を伝達したいと意図していること）が話し手と聞き手の双方に明らかに示されている状況の中で情報伝達が行われるコミュニケーションのこと

「直示の木」と本計画研究



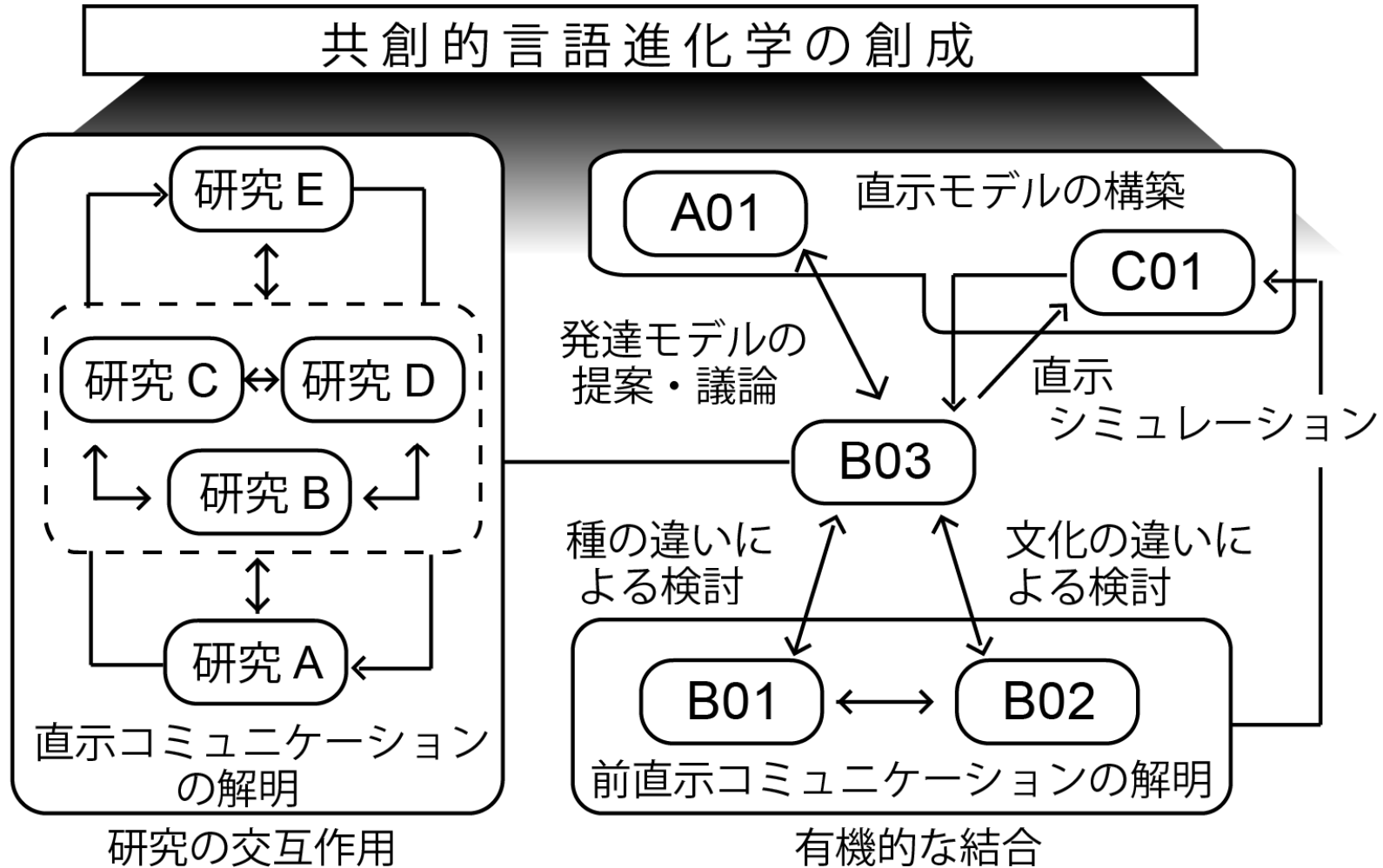
<p>[研究A] 神経律動と音韻サイクルとの関係 [馬塚・秋元]</p>	<p>乳児の音声知覚による音声の分節化過程を調べる。</p>
<p>[研究B] 分節化と韻律の発達 [松井・槻館]</p>	<p>韻律情報と発話文・状況との分節化過程を調べる。</p>
<p>[研究C] 直示コミュニケーションにおける情報伝達 [小林・安田]</p>	<p>非言語的情報の統合的利用による意図共有のしくみを調べる。</p>
<p>[研究D] 直示理解における他者情報の影響 [小林・明地]</p>	<p>指示詞等直示の使用と意図共有のしくみを調べる。</p>
<p>[研究E] 直示機構と階層化に関する文法発達 [広瀬・馬塚]</p>	<p>直示と韻律による語・文の階層化過程を調べる。</p>

本班の構成



役割	氏名	所属
研究代表者	小林春美, Ph. D	東京電機大学・教授
研究分担者	松井智子, Ph. D.	東京学芸大学・教授
研究分担者	馬塚れい子, Ph. D.	理化学研究所・チームリーダー
研究分担者	広瀬友紀, Ph. D.	東京大学・准教授
連携研究者	秋元頼孝, 博士(情報科学)	長岡技術科学大学・助教
連携研究者	明地洋典, 博士(学術)	東京大学・助教
連携研究者	槻舘尚武, 博士(教育学)	山梨英和大学・講師
連携研究者	安田哲也, 博士(情報学)	十文字学園女子大学・助手
海外協力研究者	Denis Burnham, Ph.D.	Western Sydney University, Australia
海外協力研究者	Sotaro Kita, Ph.D.	University of Warwick, UK
海外協力研究者	Thierry Nazzi, Ph.D.	CNRS, France
海外協力研究者	Francesca Happé, Ph.D.	King's College London, UK

他計画班との連携



公募研究への期待



B03認知発達班の研究の補完・発展

- 関連する事項に関する独創的なアイデア
- B03認知発達班と協働して行う研究
- 他の計画班との橋渡しを強化するような研究

たとえば

- 非言語情報の言語化
- 自閉症児の言語・非言語情報使用
- 音韻の階層構造の発達と他の種との連続性
- 手話とジェスチャーの研究